

## 市民300人を無料招待 群馬グリーンウイングス

☎ スポーツ課 ☎027-898-6990  
☎ 群馬グリーンウイングス ☎027-288-0696

本市を活動拠点とする女子バレーボールチーム・群馬グリーンウイングスが4月4日(土)のホーム戦で MAEBASHI PRIDE MATCH を開催。4日(土)・5日(日)は市民300人を無料で招待します。4日(土)は先着順で来場者にプレゼントがあります。詳しくは本市公式 LINE や群馬グリーンウイングスホームページでお知らせします。

🕒 4月4日(土)・5日(日)、13時5分  
📍 ヤマト市民体育館前橋  
👤 市内在住の人、先着300人  
📅 3月2日(月)12時～9日(月)12時までに二次元コードの申し込みフォームで



### キャプテン・高相 みな実さん

日頃よりたくさんの方の応援をありがとうございます。長いリーグ戦も終盤戦になり、白熱した順位争いになっています。私たちの目標であるファイナルの出場に向けて、開幕戦から一戦一戦を戦い抜いてきた姿をホームゲームで見てください。

今シーズンも地域の皆さんやファンの皆さんと一緒に戦ってきたという自信を胸にさらに強くなっていく姿を見せられるよう、チーム全員で頑張ります。会場で熱い！応援をよろしくお願いします。



## ホーム開幕戦で市民参加企画 バニーズ群馬FCホワイトスターを応援

☎ スポーツ課 ☎027-898-6990  
☎ バニーズ群馬FCホワイトスター ☎027-212-5075

本市を活動拠点とする女子サッカーチーム・バニーズ群馬FC ホワイトスターのホーム開幕戦で MAEBASHI PRIDE MATCH を開催します。

🕒 3月20日(金)13時  
📍 アースケア敷島サッカー・ラグビー場

### ●イベント内容

- ①グッズプレゼント  
来場者先着200人に MAEBASHI PRIDE グッズをプレゼント。
- ②エスコートキッズを募集  
市内在住の小学生からエスコートキッズを募集します。  
📅 二次元コードのホームページで
- ③特別抽選会  
選手サイン入り当日使用試合球を1人に、選手サイン入りころんとぬいぐるみを1人にプレゼント。
- ④パフォーマンス  
ご当地アイドル「あかぎ団」によるパフォーマンス。

### 本市出身選手・木村 華恋さん・関口 真由さん

今シーズンの開幕戦は「MAEBASHI PRIDE MATCH」として開催されます。前橋市出身の私たちも頑張りますので、ぜひ応援に来てください！



木村選手と関口選手のコメント動画はこちら



木村 華恋さん 関口 真由さん

## あなたに合った 文学作品を処方

☎ 前橋文学館 ☎027-235-8011

前橋文学館で、アーティスト・Tsuguko Kawasaki さん主催の「よみぐすり、処方します。処方箋文庫®」を開催。「処方箋文庫®」とは、読みたい本が分からない人へ、その人の今の心の状態に合った文学作品を処方する、いわば「文学の薬局病院」です。詩作品など(全50編予定)を「こころの錠剤=よみぐすり」として出会うことができる体験型の展示です。

🕒 3月20日(金)～5月17日(日)、9時～17時(最終入館は16時30分まで。水曜休館。4月29日(水)・5月6日(水)は開館し、4月30日(木)・5月7日(木)休館)

●関連イベント  
ギャラリーツアー&朗読会「声でひろく処方箋」  
🕒 3月20日(金)14時  
👤 一般  
📍 当日会場へ直接



## 萩原朔太郎生誕140年記念 文字を考えるコレクション展

☎ 前橋文学館 ☎027-235-8011

萩原朔太郎生誕140年記念 前橋文学館コレクション展「悪筆。文字書体をなさず。冷汗冷汗。一萩原朔太郎と文字」を開催します。本展では、収集資料から朔太郎直筆の資料を中心に展示。「文字」を手がかりに朔太郎の視点や垣間見えるものを検証すると同時に、デジタル時代の現代において「文字を書く」行為を改めて考えます。

🎫 500円(高校生以下・障害者手帳などを持っている人とその介護者1人・3

月21日(土)は無料)  
🕒 3月21日(土)～5月24日(日)(水曜休館。4月29日(水)・5月6日(水)は開館し、4月30日(木)・5月7日(木)は休館)

●関連イベント  
書家・沢村澄子さんによるパフォーマンス「悪筆ニテ、モノ申ス！」  
🕒 3月21日(土)14時  
👤 一般、先着50人  
📍 同館へ



## Vol.3 街づくりとアート

市文化芸術戦略顧問・南條史生

☎ 文化国際課 ☎027-898-6516

本コラムは「街づくりとアート」をテーマに、市文化芸術戦略顧問でアーツ前橋特別館長の南條史生が3回にわたり連載。今回は最終回です。

都市とアートの関係を考える時に、その内容についてはいくつかの観点がある。例をあげると、美術館は地域のために地元作家の作品を収集し、常設展示する。これは地元作家にメリットがあるだろう。また、地域芸術祭は地元の作家を招待し、市民とワークショップを開催する。そうした活動を通して制作された彫刻や壁画を、街のパブリックアートとして芸術祭の後まで残していく。そこには地元作家に焦点を当て、地域と交流を促し、地域のために活動するという視点がある。

一方では、例えば市内にアーティスト・イン・レジデンスを開き、海外からアーティストを招き、市民と交流しつつ制作するという場合がある。美術館も市外のみならず海

外のアーティストなどの良質な作品を展示して、他の文化について啓発的な役割を果たす。それは、広く市民が他の地域や他の文化を知り、学び、交流していくという機会を作る視点である。地域主義と国際主義のどちらかが正しいわけではない。どちらも必要なことなのだ。アートとはある種の学び

のプラットフォームであり、創造性の訓練の場なのだから。アートを取り入れた教育は、正解を求める教育ではない。アートは自分の思いや意見を発言する練習の場になるだろう。アートにおいては、皆違う答えを出して良いのだから。

昨今、ビジネスとアートという視点もしばしば取り沙汰されている。それは、ルール自体を変えていくアートの自由な発想が、ビジネスにおいて、新しい展開を生み出すのに役に立つからだろう。アートが今重要なのは、絵や彫刻が必要だということだけでなく、フレキシブルな考え方の問題なのだ。そのことをご理解いただき、今後、市内で開催されるさまざまなアートの試みをぜひ支援していただきたいと思います。

